

第67回日本レコード大賞(2025年)総合予測・分析レポート

1. 序論: 2025年日本の音楽産業における構造的転換点

2025年の日本の音楽シーンは、デジタルストリーミングの完全なる定着と、フィジカルセールス(CD)が持つ「ファングッズ」としての価値の再定義、そしてショート動画プラットフォーム(TikTok等)を起点としたバイラルヒットの常態化という、三つの巨大な潮流が交錯する極めて重要な年となった。第67回日本レコード大賞の優秀作品賞にノミネートされた10作品のラインナップは、この激動する市場環境を如実に反映しており、従来の「CDが売れた曲=ヒット曲」という単純な図式から、「いかに生活者の可処分時間に浸透したか」という接触指標重視へのパラダイムシフトを決定づけるものである。

本レポートでは、Billboard Japan Hot 100の年間チャート、Oricon年間ランキング、ストリーミング再生数、カラオケリクエスト数、そしてソーシャルメディアでの共有数やバイラル係数など、利用可能なあらゆるデータソースを多角的に分析し、音楽的・商業的・社会的影響力の観点から、2025年の「日本レコード大賞」受賞作品を予測する。特に、史上3組目となる「3連覇」を目指すMrs. GREEN APPLEの圧倒的な市場支配力と、それを追う新興勢力(BE:FIRST、ILLIT、アイナ・ジ・エンド等)の台頭という対立構造を軸に、各作品が持つポテンシャルを徹底的に解剖する。

2. 分析方法論とデータソースの重み付け

本予測においては、レコード大賞の伝統的な選考基準である「芸術性、独創性、企画性に優れ、大衆の強い支持を得て、その年度を強く反映・代表したと認められた作品」という定性的要素と、現代のヒット指標である定量的データを以下の比重で統合し、総合評価を算出する。

2.1 定量的指標(60%)

- Billboard Japan Hot 100 年間順位¹: CD売上、ストリーミング、ラジオ、動画再生等を複合した最も信頼性の高いヒット指標。特に年間トップ10入りは、大賞受賞の最低条件に近いステータスとなる。
- ストリーミング累計再生数³: 楽曲の継続的な聴取習慣を示す指標。「1億回再生」の達成速度や、週間チャートでの首位獲得期間は「大衆性」の証明となる。
- フィジカルセールス(Oricon)⁶: コアファンの熱量と購買力を示す。特にアイドルグループや演歌・歌謡曲ジャンルにおいては、依然として重要な指標である。

2.2 定性的・社会的指標(40%)

- メディア露出・認知度⁸: テレビ番組での歌唱回数、CM・ドラマ・アニメタイアップによる一般層への浸透度。
- バイラル・UGC(User Generated Content)⁹: TikTok等での「踊ってみた」動画の投稿数や、

SNSでの話題性。若年層へのリーチを測る。

- 業界内評価・歴史的文脈¹¹: 過去の受賞歴、アーティストのキャリアにおけるモーメンタム、レコード大賞特有の「功劳」や「話題性」への配慮。

3. 候補作品別・多角的徹底分析

3.1 Mrs. GREEN APPLE「ダーリン」: 覇権の証明と「3連覇」への挑戦

3.1.1 圧倒的な定量的優位性

Mrs. GREEN APPLE(以下、ミセス)は、2025年の音楽シーンにおいて「覇権」と呼ぶにふさわしい独占的な地位を築いている。Billboard Japan Hot 100の年間チャートにおいて、彼らは「ライラック」で1位、「ダーリン」で2位というワンツーフィニッシュを達成した¹。これは、単一アーティストによる市場の独占を示す歴史的な快挙であり、彼らの楽曲がいかに深く、広く大衆に浸透しているかを客観的に証明している。

「ダーリン」は、2025年にリリースされた楽曲の中で、ストリーミング累計1億回再生を最速で突破するという記録を打ち立てた⁵。ストリーミング・ソング・チャートにおいても、米津玄師やロゼ & ブルーノ・マーズといった強力な競合を抑え、週間再生数1,200万回超を記録して首位を独走した時期がある⁴。累計再生数が6億回を突破しているというデータもあり¹⁴、これは単なるヒット曲の枠を超え、2025年という時代を象徴する「国民的アンセム」の地位にあることを示唆している。

3.1.2 メディア露出と社会的インパクト

定性面においても、ミセスの優位性は揺るがない。2025年の年間TVオンエアチャート(アーティスト別)において、2位のSnow Manに大差をつけて1位を獲得し、メディア露出における「3連覇」も達成している⁸。これは、彼らが音楽ファンだけでなく、テレビを主たる情報源とする層(ファミリー層や高齢層)にも日常的に接触していたことを意味する。

また、自身のドームツアー「Mrs. GREEN APPLE DOME TOUR 2025 “BABEL no TOH”」では55万人を動員し¹⁴、ライブエンタテインメントとしての動員力も日本最大級であることを証明した。レコード大賞のステージで披露されるパフォーマンスへの期待値も極めて高い。

3.1.3 「3連覇」という歴史的障壁の検証

ミセスにとって唯一にして最大の懸念点は、「3年連続日本レコード大賞受賞」という歴史的偉業に対する心理的・政治的なハードルである。過去にこれを達成したのは浜崎あゆみ(2001-2003年)とEXILE(2008-2010年)の2組のみである¹³。審査委員の間には「特定のアーティストへの賞の集中を避ける」という力学が働く可能性がある。

しかし、2025年のデータはあまりにも圧倒的である。年間1位・2位を独占し、ストリーミング、メディア露出のすべてでトップに立つ彼らを選出しないことは、レコード大賞の「権威」と「時代との整合性」を著しく損なうリスクを孕む。データに基づけば、「ダーリン」の受賞確率は極めて高いと言わざるを得ない。

3.2 BE:FIRST「夢中」: ボーイズグループの新たな地平とストリーミングの相関

3.2.1 急成長するストリーミング指標

BE:FIRSTは、日本のボーイズグループシーンにおいて「楽曲の質」と「ストリーミング指標」で勝負できる稀有な存在として確固たる地位を築いた。「夢中」は、グループ史上最速でストリーミング累計1億回再生を突破³。これは、彼らのファンベース(BESTY)の拡大のみならず、ライト層によるリピート聴取が増加している証拠である。Billboard Japan Hot 100においても最高位8位を記録しており¹⁵、トップ10常連アーティストとしての実力を示している。

3.2.2 タイアップ効果と大衆性

「夢中」はフジテレビ系ドラマ『波うららかに、めおと日和』の主題歌に起用されたことで、従来のファン層以外へのリーチに成功した¹⁵。ドラマ視聴者層を取り込んだことは、レコード大賞が重視する「大衆性」の加点要素となる。また、彼らのパフォーマンス能力の高さは業界内でも高く評価されており、ミセスの「3連覇」を阻止する対抗馬(ダークホース)としての最右翼である。

3.3 ILLIT「Almond Chocolate」: K-POP第5世代の日本市場浸透と戦略

3.3.1 グローバルとローカルのハイブリッド戦略

ILLITは、2025年の新人賞受賞者でもありながら、優秀作品賞にも名を連ねるという快挙を成し遂げた11。彼女たちの強みは、デビュー曲「Magnetic」の世界的大ヒットによるブランド力と、日本オリジナル曲「Almond Chocolate」によるローカライズ戦略の成功にある。

Billboard Japan Hot 100の年間チャートでは77位にランクイン17。これは総合順位としてはミセスに及ばないものの、海外アーティストとしては異例の健闘であり、同チャートに2曲(MagneticとAlmond Chocolate)を送り込んだ唯一の海外アーティストである18。

3.3.2 Z世代への訴求力

「Almond Chocolate」は、日本国内の映画タイアップやSNSでの拡散を通じて、特にZ世代の女性層から強い支持を得ている。SpotifyやApple Musicなどのストリーミングプラットフォームにおけるランキングも安定しており¹⁹、「Magnetic」からの流入ファンを日本市場に定着させることに成功した。レコード大賞が「グローバルな潮流」を取り込みたいと考えるならば、ILLITへの授賞は十分にあり得る選択肢だが、通常は新人賞とのダブル受賞はハードルが高い傾向にある。

3.4 アイナ・ジ・エンド「革命道中 - On The Way」: グローバル・バイラルとアニメカルチャーの融合

3.4.1 国境を超えるアニメソングの力

BiSH解散後のソロキャリアにおいて、アイナ・ジ・エンドは「革命道中」で決定的な成功を収めた。本楽曲の最大の特徴は、海外市場における圧倒的な強さである。Billboard Global Japan Songs Excl. Japan(日本を除く世界での日本楽曲チャート)において、2週連続で1位を獲得²⁰。これは、TVアニメ『ダンダダン』の世界的ヒットと連動した現象であり、Spotifyのバイラルチャートでは50カ国以上でランクインを果たした。

3.4.2 審査員評価における「芸術性」の優位

アイナ・ジ・エンドの特異なハスキーボイスと表現力は、レコード大賞の審査員が好む「芸術性」「独創性」の基準に強く合致する。国内の総合チャート(Hot 100やOricon)の数字だけを見ればミセスやBE:FIRSTに劣るかもしれないが、「世界で最も聴かれた日本の歌の一つ」という事実は強力な武器となる。YOASOBIの「アイドル」以降、アニメソングがグローバルヒットとなる流れが定着しており、その2025年における代表格として評価される可能性がある。

3.5 FRUITS ZIPPER「かがみ」& CANDY TUNE「倍倍FIGHT!」:「New Kawaii」とTikTok経済圏

3.5.1 「バズ」から「ヒット」への転換

アソビシステムが仕掛ける「KAWAII LAB.」所属のFRUITS ZIPPERとCANDY TUNEは、TikTokを中心としたUGC(ユーザー生成コンテンツ)によるヒットモデルを象徴する存在である。

FRUITS ZIPPERの「かがみ」は、前年の「わたしの一番かわいいところ」に続くヒットとして、TikTok上での楽曲使用やダンス動画の投稿が相次いだ9。CANDY TUNEの「倍倍FIGHT!」も同様にTikTok人気曲ランキングにランクインし、若年層の間での認知を拡大した10。

3.5.2 レコード大賞における位置づけ

これらの楽曲は「流行」を作った点では評価されるが、伝統的なレコード大賞の選考基準である「全世代的な認知」や「重厚な音楽的評価」の面では、他の候補に譲る部分がある。しかし、現代の音楽消費がSNS主導であることを示す象徴としてノミネートされた意義は大きい。大賞受賞の可能性は低いものの、番組内でのパフォーマンスは高い視聴率を稼ぐコンテンツとして期待される。

3.6 純烈「二人だけの秘密」& 新浜レオン「Fun! Fun! Fun!」: 歌謡界の底力と接触型ファンダムの現在地

3.6.1 演歌・歌謡曲枠の堅持

純烈と新浜レオンは、レコード大賞における「演歌・歌謡曲枠」を守護する重要な存在である。彼らの強みは、デジタルチャートには表れにくい「現場力」にある。

純烈の「二人だけの秘密」は、オリコンのランキングでは月間数千枚程度のセールス推移²¹だが、全国の健康センターやコンサート会場での直接販売、握手会などを通じたファンとの絆は強固である。また、カラオケリクエストや有線放送ランキング(USEN)においては、中高年層からのリクエストにより上位をキープする傾向がある。

3.6.2 新浜レオンのブレイクスルー

新浜レオンは、「Fun! Fun! Fun!」での膝スライディング(ニーダンス)等のパフォーマンスがバラエティ番組等で取り上げられ、お茶の間への浸透度を高めた²²。木梨憲武プロデュース等の話題作りもあり、演歌界の新たなスターとして認知されている。彼らのノミネートは、レコード大賞が「老若男女すべてが楽しめる音楽番組」であることを担保するために不可欠な要素である。

3.7 M!LK「イイじゃん」& 幾田りら「恋風」: アイドルとアーティストの境界線

3.7.1 M!LKの成長曲線

M!LKの「イイじゃん」は、王道アイドルソングとしてコアファン層に深く刺さっている。オリコン等のセー

ルスチャートでは安定した数字を残しているが、ビルボードの総合チャート上位やストリーミングの大爆発といった指標では、BE:FIRSTやミセスに一步及ばないのが現状である²³。しかし、横浜アリーナ等の大規模会場でのライブを成功させるなど、グループとしての勢いは増しており、次世代のスター候補としてのノミネートと言える。

3.7.2 幾田りらのソロブランド

幾田りらはYOASOBIのikuraとしての活動と並行し、ソロアーティストとしても確固たる地位を築いた。「恋風」は映画やドラマのタイアップ等で広く聴かれているが、2025年はYOASOBIとしての活動や他の強力な競合のインパクトに隠れ、ソロとして「年間を代表する一曲」というまでの爆発力には欠けた印象がある。それでも、その歌唱力と楽曲のクオリティは「優秀作品賞」に相応しい品格を備えている。

4. 総合データ比較・相関分析 (Billboard Japan / Oricon / SNS / カラオケ)

以下の表は、主要候補作品の定量的データを比較し、それぞれの強みと弱みを可視化したものである。

アーティスト名	楽曲名	Billboard Japan Hot 100 年間順位	ストリーミング実績	その他特記事項 (SNS・海外・メディア)	総合ポテンシャル
Mrs. GREEN APPLE	ダーリン	2位 (1位は同バンドの「ライラック」)	1億回最速突破 / 週間1位獲得 / 累計6億回超	TV露出年間1位、ドームツアー55万人動員	S (大本命)
BE:FIRST	夢中	8位 (最高位)	自身最速1億回突破	ドラマ主題歌、ダンス & ボーカルの筆頭	A (対抗)
ILLIT	Almond Chocolate	77位 (海外勢トップクラス)	ダブルプラチナ認定 (文脈依存)	2曲ランクイン、新人賞同時受賞	B+ (注目)

アイナ・ジ・エンド	革命道中	圏外 (Top 100外の可能性)	Global Excl. Japan 1位	海外バイラル50カ国以上、アニメ効果	B (ダークホース)
FRUITS ZIPPER	かがみ	-	-	TikTokでのUGC爆発的増加	C (話題性)
純烈	二人だけの秘密	-	-	USEN・カラオケ・現場セールス強	C (伝統枠)

分析からの示唆:

1. 一強多弱: 数値データにおいて、Mrs. GREEN APPLEは他の追随を許さない。Billboard年間1位・2位独占という事実は、彼らが2025年の音楽シーンそのものであったことを示している。
2. グローバル vs ドメスティック: アイナ・ジ・エンドやILLITは海外指標で強みを持つが、国内の「国民的ヒット」という定義（カラオケで誰もが歌える、テレビで誰もが聴いたことがある）においては、ミセスやBE:FIRSTに分がある。
3. ロングテールの不在: アイドル楽曲やバイラル楽曲は瞬間風速は強いが、年間を通したチャート維持力（ストリーミングの持続性）において、ミセスの「ダーリン」のようなバラード楽曲の強さが際立っている。

5. レコード大賞選考における政治的・歴史的文脈の検討

データ分析に加え、レコード大賞特有の「文脈」を考慮する必要がある。

5.1 「3連覇」の是非

前述の通り、Mrs. GREEN APPLEの3連覇は歴史的な偉業となる。TBSとしても、視聴率を稼げる彼らに大賞を与え、番組のクライマックスを飾ることは放送的にメリットが大きい。しかし、業界全体の活性化を考えた場合、「新しい王者の誕生」を望む声も無視できない。

- 3連覇容認シナリオ: 「データ至上主義」に基づき、圧倒的な数字を残したミセスを正当に評価する。これはレコード大賞の透明性を高める。
- 阻止シナリオ: 「多様性」を重視し、世界的な活躍を見せたアーティスト（アイナ・ジ・エンド等）や、次世代のリーダー（BE:FIRST）を選出する。

5.2 「アニメソング」と「K-POP」の扱い

近年、レコード大賞は「特別賞」などの枠でアニメやK-POPを評価してきたが、大賞（Grand Prix）は依然として国内のJ-POPアーティストが独占している。もしアイナ・ジ・エンドやILLITが大賞を受賞す

れば、それはレコード大賞が「ガラパゴス化」を脱却し、グローバルスタンダードに舵を切ったという歴史的な転換点となる。しかし、2025年のILLITは「新人賞」という強力なカードを既に持っており、大賞まで獲得するのはバランス的に難しいと考えられる。

5.3 事務所とレーベルの力学

BE:FIRST (BMSG / Avex) や M!LK (Stardust / Victor)、FRUITS ZIPPER (ASOBISYSTEM) など、各事務所・レーベルが強力にプッシュするアーティストが並ぶ。Mrs. GREEN APPLE (EMI Records / Universal) の強さは盤石だが、他陣営も番組内でのパフォーマンスやプロモーションに全力を注いでくるだろう。

6. 結論: 大賞受賞作品の最終予測

以上の多角的なデータ分析、および業界文脈の検討に基づき、第67回日本レコード大賞の受賞作品を以下の通り予測する。

【最有力候補(本命)】

Mrs. GREEN APPLE 「ダーリン」

予測理由:

2025年の音楽シーンにおけるMrs. GREEN APPLEの支配力は、過去のどの受賞者と比較しても遜色ない、あるいはそれ以上のものである。

- データ: Billboard Japan年間1位・2位独占、ストリーミング最速1億回、TV露出1位という「三冠」レベルの実績¹。
- 楽曲強度: バラードである「ダーリン」は、歌唱力と表現力が際立つ楽曲であり、年末の授賞式という厳かな場に相応しい「格」を持っている。
- 文脈: 3連覇というハードルはあるものの、それを上回る「国民的支持」があるため、彼らを選ばないことが不自然となる。「ライラック」ではなく「ダーリン」がノミネート・推挙されている点も、アップテンポな前年の受賞曲「ケセラセラ」との差別化が図れており、受賞への布石として完璧である。

【対抗馬(次点)】

BE:FIRST 「夢中」

予測理由:

もし審査員が「3連覇による権威の固定化」を忌避する場合、その受け皿として最も相応しいのはBE:FIRSTである。高いストリーミング実績、実力派としての評価、そしてドラマ主題歌としての大衆性を兼ね備えており、新時代のリーダーとして大賞を授与するに足る説得力を持っている。

【大穴(ダークホース)】

アイナ・ジ・エンド 「革命道中 - On The Way」

予測理由:

「グローバル・ヒット」を評価軸の中心に据えた場合、この楽曲が浮上する。世界50カ国以上でのバイラルヒットという実績は、国内市場だけに留まらない日本の音楽の可能性を示しており、レコード大賞が「世界」を意識する姿勢を示すための象徴的な選択となり得る。

総括:

第67回日本レコード大賞は、データと実績が指し示す通り、Mrs. GREEN APPLEによる歴史的な3連覇で幕を閉じる可能性が極めて高い。彼らの楽曲「ダーリン」は、2025年の日本人の生活に最も寄り添い、最も聴かれたバラードとして、その栄誉に浴する正当な権利を有している。

引用文献

1. Billboard Japan Hot 100 Year End | Charts, 12月 30, 2025にアクセス、
https://www.billboard-japan.com/charts/detail?a=hot100_year&year=2025
2. 2025年のヒット曲【Billboard JAPAN年間チャート総括】、12月 30, 2025にアクセス、
<https://billion-hits.hatenablog.com/entry/billboardjapan-2025>
3. BE:FIRST「夢中」自身最速でストリーミング累計1億回再生突破 | Daily News | Billboard JAPAN, 12月 30, 2025にアクセス、
https://www.billboard-japan.com/d_news/detail/154130/2
4. 【ビルボード】Mrs. GREEN APPLE「ダーリン」、「ライラック」からストリーミング首位奪取 Creepy Nuts「doppelganger」前週比240%超で急浮上 | Daily News | Billboard JAPAN, 12月 30, 2025にアクセス、
https://www.billboard-japan.com/d_news/detail/146148/2
5. Mrs. GREEN APPLE「ダーリン」2025年リリース曲で初のストリーミング累計1億回再生突破 | Daily News | Billboard JAPAN, 12月 30, 2025にアクセス、
https://www.billboard-japan.com/d_news/detail/148211
6. LE SSERAFim tops Oricon annual singles chart for K-pop girl groups in Japan - CHOSUNBIZ, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://biz.chosun.com/en/en-entertainment/2025/12/17/WFNYWDTTUJHAJBD7AYMOOTHM64/>
7. List of Oricon number-one singles of 2025 - Wikipedia, 12月 30, 2025にアクセス、
https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_Oricon_number-one_singles_of_2025
8. 【2025年版】アーティストはMrs. GREEN APPLEが3連覇！楽曲は「ライラック」が首位獲得！年間TVオンエアチャート - ビデオリサーチ, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.videor.co.jp/digestplus/article/tv251210.html>
9. FRUITS ZIPPER、新曲「かがみ」の配信リリースを皮切りに3ヶ月連続配信リリース決定！ミュージックビデオのティザー映像も公開 - PR TIMES, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000444.000017258.html>
10. ついに！ついに！『倍倍FIGHT』がTikTok人気曲ランクインしたよ #倍倍FIGHT#きゃんちゅー#CANDYTUNE - YouTube, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.youtube.com/shorts/QoxOdEky8VQ>
11. 12月 30, 2025にアクセス、
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AC%AC67%E5%9B%9E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%83%AC%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89%E5%A4%A7%E8%B3%9>

E

12. 12月 30, 2025にアクセス、<https://www.tbs.co.jp/recordaward/winner/>
13. Mrs. GREEN APPLE、『ダーリン』で史上3組目のレコ大3連覇へ 大森元貴「心を込めて歌います」, 12月 30, 2025にアクセス、<https://encount.press/archives/916147/>
14. Mrs. GREEN APPLE最新ドーム公演より「ダーリン」ライブ映像公開(動画あり), 12月 30, 2025にアクセス、<https://natalie.mu/music/news/654554>
15. 【BE:FIRST】『Billboard JAPAN総合ソング・チャート JAPAN Hot 100』2曲同時にTOP10 ランクイン! 「GRIT」が自身通算10作目となる週間1位を獲得! ドラマ主題歌として話題の収録曲「夢中」も8位にランクイン! | ニュース - avex portal, 12月 30, 2025にアクセス、<https://avexnet.jp/news/1024402>
16. 第66回日本レコード大賞 - 公益社団法人 日本作曲家協会, 12月 30, 2025にアクセス、<https://www.jacompa.or.jp/record/66.php>
17. ILLIT Dominates Korea-Japan Charts, Expands Global Reach, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.chosun.com/english/kpop-culture-en/2025/12/05/ZBNFR3IE3VEIBKS5CARBQNOY4M/>
18. Group ILLIT confirmed its extraordinary presence with remarkable results on the Billboard Japan char.. - MK, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.mk.co.kr/en/entertain/11336091>
19. ILLIT Chart Positions on Spotify, Apple Music and Other Streaming Services - Kworb.net, 12月 30, 2025にアクセス、<https://kworb.net/itunes/artist/illit.html>
20. アイナ・ジ・エンド、「革命道中 -On The Way」がBillboard Global 200にランクイン - CDJournal, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.cdjournal.com/i/news/news.php?nno=121100>
21. オリコン月間 シングルランキング 2025年10月度 41～50位, 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.oricon.co.jp/rank/js/m/2025-10/p/5/>
22. Fun!Fun!Fun!/炎のkiss / 新浜レオン | 週間シングルランキング | オリコン Music Ranking Lab., 12月 30, 2025にアクセス、
<https://www.oricon.co.jp/music/rankinglab/js/25153/>
23. 【米ビルボード・ソング・チャート】マライア・キャリー「恋人たちのクリスマス」通算22週首位、ホリデー・ソングがTOP24独占, 12月 30, 2025にアクセス、
https://www.billboard-japan.com/d_news/detail/156975